

福祉計画検討委員会 議事録

事務局出席者 健康福祉部健康・保険担当部長兼保健センター所長

高津 和憲

保健センター所長代理兼主任

西條 ひろみ

高齢福祉課長

磯野 美子

高齢福祉課主任

菅井 雅一

○議事録

議長 それでは、最後の案件になります「なわて高齢者プラン」についてご審議いただきます。事務局よろしくお願いします。

事務局 本日は、貴重なお時間をいただき有難うございます。まず事務局の紹介をさせていただきます。私の一番向こうから健康福祉部健康・保険担当部長兼保健センター所長の高津でございます。続きまして保健センター所長代理兼主任の西條でございます。それから高齢福祉課長の磯野でございます。そして最後に私高齢福祉課主任の菅井です。よろしくお願いいたします。

事務局 それでは保健センターから説明させていただきます。お手元の資料をご覧ください。保健センターでは、健康づくりの推進のため、事業を行っています。高齢者に関することは、介護保険が主流であるため関わりは年々無くなってきています。健康教室受講後、自主的な会をつくり、活動しているグループを支援し、交流会などを行っています。今年度も自主グループの立ち上げを目的に健康教育の充実を図ってきました。それでは、40歳からの健康づくり事業の報告をさせていただきます。

まず、健康診査及び検診についてですが、特定健康診査は、保険年金課で市国民健康保険加入者に対して行っていますが、受診率向上のため昨年度から無料で実施しています。1月末現在の受診状況は低いのですが、未受診の勧奨はがきを3月初旬に発行しているため、駆け込みの受診が見込まれます。がん検診は子宮がん検診を除いて低い状況です。大腸がんにつきましては、今年度は協会けんぽの加入者にも啓発を行い、受診者は増えております。

健康手帳の発行状況は、平成28年1月末で1344人です。今年度は、40歳の大腸がん、乳がんの無料クーポン券発行対象者に同封

して送付しているため、増えています。

次に訪問指導について説明します。高齢者が何らかの福祉サービスを利用する場合は、介護保険を申請されますので、保健センターの訪問利用はまずありません。最近では緊急通報装置を希望する方の訪問のみとなっており、依頼に基づく訪問となっています。訪問件数は、平成 28 年 1 月末で 4 人です。

健康教育に関しましては、1 月末現在 47 回実施し、参加延べ人数は、1,899 人です。

健康相談に関しましては、1 月末現在 33 回実施し、相談延べ人数は、1,122 人です。

リハビリテーションに関しましては、地域からの出前講座の依頼を受け、転倒予防の講座で体力測定等を行い、介護予防のための啓発を行っています。

個別支援訪問に関しましては、1 月末現在で訪問指導延べ人数は、27 人で年々減少しております。以上でございます。ありがとうございました。

事務局 続きまして、高齢福祉課から説明させていただきます。お手元の資料 1 ページをご覧ください。2 社会参加の促進（3）生きがい・交流事業の充実、⑤地域支え合い体制づくり事業の推進でございます。

地区の公民館的施設などにおいて、福祉活動主体が実施する独居高齢者をはじめとした高齢者のつながりづくりのための各種事業を育成・支援することを目的として、今年度は、消耗品の助成のみでは使い辛かったという地区からの指摘を踏まえ、あらためてこれまでの活動をはじめとした取組みなど、地区・地域で行う高齢者の「ふれあいを育む活動」を、他地区・他地域の市民でも一定数が利用できるよう、ふれあいサロン〇〇〇と称して育成・支援補助を行いました。利用の使途を消耗品及び備品のほか、講師謝礼、光熱水費並びに施設使用料（活動相当分）を対象とした補助金制度といたしました。

これまでの取組み経過なのですが、5 月 20 日の区長会から各ふれあいサロンなどを含む 27 地区に説明を行ったうえで、本年 1 月末までを申請期限として補助を行いました。

結果、17 地区からの申請となりましたが、申請されなかった地区に対しては聞き取りを行い、多くは地区福祉委員会での小地域ネットワークや老人クラブの活動を行っている為、そちらの補助金を

受けており、本補助金を申請されない旨把握いたしております。今回の補助や聞き取りにより、高齢者のサロンの活動は市内各地域に広がっているものと再認識しましたが、来年度以降も引き続き当補助事業を継続し、活動の充実を図っていきたいと考えております。

続きまして、④交流やふれあいの場・機会づくりでございます。2ページ目をご覧ください。今年度の取り組みですが、楠風荘では有意義な時間を過ごしていただくため、大広間において時代劇やコメディ、ホームドラマ、アニメなどの映画上映を行うなど、毎月いろいろな催しを実施しました。また、健康の維持と親睦を図るため、引き続き好評の健康フラダンスをはじめとした健康事業も実施いたしました。平成26年～30年度の5年間、(株)ビケンテクノに対し、引き続き指定管理者を委託することにより、今後も民間事業者のノウハウを活用し、利用者が日々の生きがいづくりや各サークルの会合等、ふれあいのオアシスの場・生涯学習の場として大いに利用してもらえるような施設を目指していきます。

また、昨年9月11日（金）には市民総合センター市民ホールにて敬老会を開催しました。今年度は、市制施行45周年記念事業として実施しましたが、1部の式典を大いに盛り上げようと、100歳を迎えられる市民の方に一人でも多く登壇していただきたいと考え、市内施設等に居られる対象者全てに連絡・訪問し、4名の方に敬老会にお越しいただきました。2部のお祝いイベントにおきましても、高齢者の皆さんが楽しんでいただけるよう、ジャグリング曲芸ショーや演歌歌謡ショーを実施しました。例年同様、老人福祉施設の入所者を招待するなど、高齢者の皆様に配慮しながら取り組みました。

なお、今年度も100歳表彰者を全て訪問し、直接お祝い状等をご家族様等が同席のうえお渡しさせていただくことで、表彰者本人だけでなく関係者の方々にも喜ばれる事業といたしました。

次に、3 日常生活を支援する体制の整備・強化（1）介護保険制度以外の高齢者福祉サービスの充実、⑦生きがい生活支援型の通所事業でございます。資料の3ページをご覧ください。今年度の取り組みですが、「街かどデイハウスさんら」については、現在の週4日（月・水・木・金）の開所日を週5日（月～金）に拡大を図りたく、更なる利用者増を目指し、運営委員会に対する助言などを行うとともに、府交付金の確保に努めました。

「ふれあいサロン」につきましては、男性向けサロンを含め安定し

た活動を今年度も続けました。引き続き、生きがいくくりや引きこもり予防、ふれあい活動等を主たる趣旨として、地区公民館等で活動するサロン活動と合わせ支援・補助を行っていきます。

また、「ふれあい元気クラブ・えんじょい」については、平日の午前10時から午後4時の間で午前と午後に分け、今年度も囲碁・将棋をはじめとした娯楽や書道教室、健康体操、歌体操などを実施しました。口コミなどにより来場者数は着実に増加してきましたが、今後も西部市街地における高齢者がふれあえる拠点施設として、引き続き市民へ周知を図っていくことが重要と考えております。

上記通所事業につきまして、今年度も地域支え合い体制づくり事業の一環として引き続き、推進・支援してまいります。

引き続きまして、2 社会参加の促進（3）生きがい・交流事業の充実、②交流ふれあい（生きがいと健康づくり）事業でございます。4 頁目をご覧ください。今年度の取り組みですが、シルバーアドバイザー四條畷の協力により、ユースマレットゴルフをほぼ毎月1回、北出広場において実施しました。今後も普及促進のため、市広報においても可能な限り活動日時を掲載してまいります。

また、例年健康の集いとして大阪ガスグループ福祉財団の協力を得て実施している健康体操等の講座につきましては、近年は財団への申込が殺到し、高齢者に人気がある講座であるものの今年度の開催は適わず、再度大阪ガスグループに対し依頼・調整を行ってまいります。

次に、（2）地域福祉活動への支援、イ民生委員の活動でございます。今年度の取り組みですが、緊急連絡カードの配布事業については、民生委員に依頼して5年が経過しましたが、昨年10月の民生委員・児童委員定例会において、あらためて事業主旨の説明を行うとともに、約20世帯分を追加配付させていただきました。

引き続き、個人情報取り扱いには細心の注意を払うとともに、キットの配付が平素の見守り活動として、配付者に対する定期的な訪問等につなげていくことが必要と考えております。

資料の5 ページ目をご覧ください。4 地域包括ケア体制の強化の（1）地域包括支援センターの機能強化と（2）地域包括ケアシステムの基盤となるネットワークや体制の整備でございます。

今年度の取り組みですが、くすのき広域連合からの折込み記事と合わせ、毎月広報に包括毎のイベントを掲載し、引き続き周知啓発に努めました。

また、各地域包括支援センターが自治会やふれあいサロン等の地域活動に参加することにより、それぞれの地域に合わせた相談体制や支援体制を構築するとともに、関係機関との間でも地域包括ケア会議を積み重ね、個別課題の解決や地域包括支援のネットワーク構築、地域課題の発見に努めました。

引き続きまして、②医療と介護の連携強化でございます。6頁をご覧ください。今年度の取り組みですが、在宅医療・介護連携の推進のため、大東・四條畷医療・介護連携推進運営委員会を中心に関係機関等との連携を深めるとともに、課題の整理を行い、優先順位の検討や課題解決に向けた研修会の開催などを行いました。より細やかな地域ケアネットワークの構築を図るため、来年度以降も地域ケア会議との整合性を図りながら、地域包括支援センター、介護事業者、医療機関、四條畷保健所、三師会（医師会、歯科医師会、薬剤師会）等との連携をより一層推進していきます。

最後に、「俳句のまち四條畷」575ブレスレット配付事業の取り組み報告でございます。本事業は、要綱を作成して10月から実施しておりますが、配付者の名簿を市で管理のもと、警察をはじめ介護事業所等の関係機関と連携し、徘徊等による高齢者行方不明時の身元情報として活用していきます。今後とも高齢者の方に、四條畷市のPRにご協力を賜ることで、自分の住むまちに愛着が深まるとともに、万一の時の備えのひとつとなり、ご本人やご家族の安心に繋がることを目指していきます。

以上を持ちまして、高齢福祉課の説明を終えさせていただきます。ありがとうございました。

議 長 はい、ありがとうございました。ただ今の報告につきまして、委員の皆様、何かご意見・ご質問等ございませんでしょうか。

大滝委員 本市の100歳以上高齢者の人数を教えてください。

事務局 100歳以上高齢者ということで毎月統計に変動があることをご承知いただいたうえで答えさせていただきます。概ね20名前後で推移しております。

大滝委員 そのうちの男女比率はどうなっていますか。

事務局 8割から9割が女性となっております。

山上委員 健康診断の受診率が低いように思うのですが、だいたい10%台ですし、なかには一桁4%台とかありますが、対象者には周知されてこれだけの数字なのですか。

事務局 がん検診の所かと思われませんが、受診率が低い状況になっております。乳がん検診と子宮がん検診はそこそこの数字ですが、胃がん検診につきましては集団検診と、個別の委託検診は施設検診のみとなっている状況です。受ける場所がもともと少ない状況にあり、その為に低い状況となっております。少し補足させていただきますと胃がんと肺がん検診につきましては一定の設備が必要であり、他のがん検診は市内の診療所等でも委託して実施しているところですが、胃がんと肺がん検診につきましては一定の撮影機器が必要となり、撮影したフィルムを読み取る技師も要る為、なかなか個別の診療所に委託するのは難しく、現状は集団検診に頼ることとなっております、結果的に受診人数が少なくなっております。

山上委員 胃がん・肺がん検診ですが、毎年受診されている人数が少ないのですが、これは問題ではありませんか。何らかの医師との連携が図れません。医療費の抑制とかも考えればね。何か提携とかされていないのですか。生駒市とか奈良市とか、大阪市とか近郊都市と一体となって何かないのですか。

議 長 福田委員どうでしょう。この件についてお願いします。

福田委員 肺がん検診に関しては2人の医師が要るが大東市は始めています。昨年は10%か20%程度の受診率だったかと思います。四條畷市はまだそこまで進んでおらず、検診日が少ないのが問題です。月に1回、年に10回しかしない。確かに言われるように個別の開業医では実施が難しいです。市から体制を取って実施してもらうよう言うていただければ可能です。一方で前立腺がんの検診は個別の医療機関で出来るので11%程が受診しているので周知は図れており、胃がん・肺がん検診についても少しの努力で10%を超えることが可能になると思われます。

山上委員　　市民に推進している以上は少なくとも１０％以上に持ってこないといけないと思いますが、毎年医師会からも指摘されていますが、保健センターはどうして動けないのですか。

事務局　　肺がん検診につきましては、２８年度から実施する方向で医師会と詰めている状況にあります。胃がん検診につきましては、大阪市内の施設とも契約して受けられるようにしておりますがなかなか伸び悩んでおります。

山上委員　　今伸びているのが子宮頸がん検診とか乳がん検診で、これは今話題になっているから１０％以上超えているのではないのでしょうかね。多分新たな人ではなくて同じ人が行っているのではないかと思います。このような状況のなかで受診率にたいして保健センターとして２８年度の方針として、これをどこまでもって行く目標を持っておられますか。

事務局　　とにかく周知方法の工夫が大事だと思っています。子宮頸がん・乳がん検診につきましては、クーポン等を送った経緯もありまして関心も高まっております。また有名人に癌が見つかったこともあって受診率は上がっていますが、他の検診につきましては伸び悩んでおり周知を図るしかないのが現状でございます。

山上委員　　行きたい人は行っているのですが、胃がん検診は何処、肺がん検診は何処で実施しているなど市民の方にしっかりと周知していますか。

事務局　　広報４月号の折り込みの中で保健事業の年間のご案内を入れておりまして、受けられる医療機関を掲載いたしております。それとクーポンを送付しているのですが、受診されていない方に対し、勧奨の葉書きを送付してその影響で受診していただいている方もいらっしゃいます。

山上委員　　ということは推進すれば受診率が上がるということなので、そういう仕組みづくりをお願いしたい。２８年度は月に１回有るか無いかではなしに地域でも協力してもらいながら仕組みづくりを工夫していただくべきだと思います。その辺りはどうでしょうか。

事務局 保健センターの集団で実施している部分につきましては、検診車による検診を行っているので、毎年回数増の協議を行っているが、検診車のキャパに限りがあり、回数を増やすことが困難でございます。

山上委員 これは費用が発生するのですか。

事務局 もちろん委託して検診車も来ていただいております、受けてもらった人に応じて支払う部分と検診の固定費用も発生いたします。

山上委員 28年度予算はどの位の予算が付いていますか。

事務局 予算上は実績よりも多めには計上しており、それを超える場合は補正等を行い、実施する形となります。

山上委員 ということは市として推進していくべきと思いますが、市として考えていかなければならないと思うのですが、保健センターと医師会との連携が取れていないのではないのでしょうか。なかなか変わらないということ。

事務局 連携は取れているものと思っており、医師会からの提案も受けていなかで、費用面がありますので検討もしたうえで、遅れ遅れになる場合もありますが、基本的には協議し連携を図りながら進めております。

山上委員 ということは、がん検診については28年度も同じような予算ということですかね。

事務局 先ほど申し上げましたように、肺がん検診については増やしています。医師会と着実に進めておりますので。

村上委員 国民健康保険の人間ドックの受診率もここに入っているのですか。

事務局 国民健康保険の人間ドックの受診率は別枠となっております。どれくらい行かれたかというのは分からない状況です。

村上委員 人間ドックも検診を受けたことになりますよね。調査されてはどうですかね。

事務局 この統計は市の検診としての数となっています。ご自身で健康意識の高い方で人間ドックを受けている方は含まれておりません。やはり受診が低迷している状況ですので、今年度は、協会健保の社会保険の方たちがサン・アリーナで特定検診を受診する機会があり、そちらで大腸がん検診を啓発して受診が増えました。そういったできるところから受診率を増やしていきたいと考えております。

山上委員 各保険の受診率を把握できているのかどうか。この資料だけなら何なのと思わざるを得ないので、報告としてきちっと掌握できる分を全て出していただきたいと思いますが。そういう仕組みにはなりません。

事務局 あくまでも個人が受けた検診データは市に来ないのです。今後はマイナンバー制度をどのように活用するかということによりますが、そういった連携と言いますか、情報を共有することを人間ドックまで活用できるようになれば一元的に把握も可能となるかと考えております。

山上委員 それを今後の課題として、これは訴えていくべきではないのでしょうか。数パーセント台の受診率ではね。

福田委員 おそらく大阪府下のデータが集まっているのですけれども、四條畷市の受診率は低い方になるかと思います。ただマイナンバー対応ではいつまで経っても難しいと思います。保健センターには頑張って予算を取ってもらって検診日を増やしていただきたい。また特定検診の受診率についてですが、四條畷市も高めるべく勧奨用の葉書を2月に送ってくれたのですが、インフルエンザの時期で検診者が患者と2時間も交える形となるので、通知を9月から10月に出してはどうでしょうか。葉書を出す時期を考えていただきたい。2月のインフルエンザ時期の実施では具合が悪いです。

事務局 初回の勧奨葉書につきましては7月に出しているのですが、その

件につきましては反省し、秋の時期に通知したいと思います。

山上委員 保健センターとして自覚を持っていただきたい。また受診率を高めることを各地域に訴えていくことも考えていただきたい。その為にも予算を確保していただきたいと思います。予算が無いことには進みませんのでね。来年検討をお願いします。

議 長 はい、ありがとうございます。他にご意見ご質問等ございませんでしょうか。無いようですので、これで「なわて高齢者プラン」についての審議は終了させていただきます。これで本日予定しておりました案件は全て終了しました。長時間に渡り貴重な意見をいただきまして、また円滑な議事の運営にご協力いただき、ありがとうございました。